

## 作文コンクール 優秀賞作品「子供のそばで～果たしたい思い～」

大阪府立佐野高等学校 2年 山本あかりさん

「私が悪かったのかな・・・？」

小五の夏、私はグループ間でいじめにあい、悩み苦しみながら毎日を過ごしていました。ある日、私が勇気を出して「やめて」と言うと、それをきっかけに今夜は加害者扱いされてしまい、相手の子の親に何時間も怒られ、自分に非があったのかなと思うようになりました。しかし、そんな時に担任の先生が、「あなたは悪くない。」と言ってくれたのです。私を見ていてくれたのだと思い安心し、その言葉に私は救われました。その頃から私は先生に憧れを抱き、自分もしっかりと生徒を見ることが出来る先生になりたいと思うようになりました。

教師に憧れを抱いたものの、その当時は「あの職業に就けたらいいな」程度のものでした。しかし、そんな私に本気で教師を目指したいと思わせてくれる先生との出会いがありました。それは、中学校の体育の先生との出会いです。私は中学生になって初めて、体育教師に出会いましたが、体育の授業内容は小学校の頃よりも本格的になり、とても楽しいと感じるようになりました。その先生の授業は、体育が得意な子もそうでない子も皆が楽しめるような工夫がなされており、何よりも、先生本人がいつも明るく楽しそうにしていたので、私達も楽しくできたのではないかなと思います。漠然と教師になりたいと思っていた私ですが、この先生との出会いを通してより体育を好きになり、私も運動をするのが苦手な人にも楽しいと思ってもらえるような、体育の先生になりたいと強く思うようになりました。

周りからは、しんどい中学校でなくとも、高校でも体育教師はできるよと言われますが、中学校から授業内容は本格化し、運動部の部活動等も始まります。その始まりの時期の教師になって、授業で体育を苦手にならないよう、部活動で辛いと思わないようにサポートしたいから、中学校教師を志望します。私が受けたような、生徒とコミュニケーションをとりながら、生徒が意欲的に取り組める授業や部活動を作っていくのが私の今の目標です。

私の夢である中学校の女性体育教師は採用試験の倍率も高いと聞いていますし、なることはたやすいことではないと思います。しかし、迷っていた中学生の私に体育の先生が贈ってくれた、「やらずに後悔するより、やって後悔する方がいいよ。頭で考えるよりまずはやってみたら。」という言葉に胸に、一步一步夢に向かって努力をしていきます。